

平成 27 年 (2015 年) 4 月 1 日 <No-3>

長野県松本家畜保健衛生所
〒390-0851 松本市島内西川原 6931
TEL:0263-47-3223 FAX:0263-47-0101
E-mail:matsukachiku@pref.nagano.lg.jp
中信家畜畜産物衛生指導協会
TEL : 0263-47-6789

かほだより

牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)の
侵入防止・まん延防止にご協力下さい

公共牧場入牧前に検査とワクチン接種！

BVD-MDとは？

……この病気はちょっと複雑です。ご不明な点は家保まで
お問い合わせ下さい。

BVDウイルスの感染による牛の病気です。健康牛に感染した場合は、一過性の発熱、呼吸器症状及び下痢を呈するか、もしくは、感染のみで症状は呈さず、その後、終生免疫（一度の感染で生涯その感染症に罹らない）を獲得します。

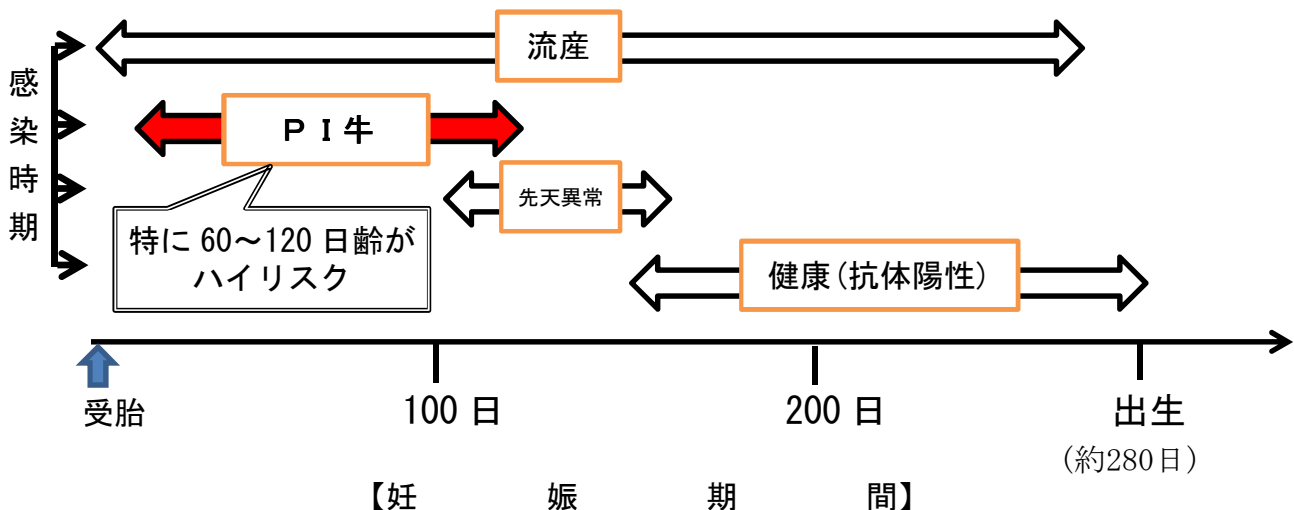
これだけなら、経済的な被害も少ないのですが、問題となるのは**持続性感染牛（PI牛）**です。

PI牛とは？

妊娠牛がBVDウイルスに感染すると胎盤から胎児に感染し、胎児の日齢（胎齢）により流産や先天異常が起こります。特に**胎齢100日前後での感染**では胎児の免疫機能ができあがっていないため、感染した**ウイルスを自己と認識**し、抗体を作らず**PI牛**として生まれます。

PI牛は、死ぬまで**大量のウイルスを出し続ける**こととなります。

妊娠牛がウイルスに感染した時期で胎児の運命が決まります



何が問題？

- 妊娠牛がウイルスに感染した場合は、胎児にも感染し、P I牛が生まれる可能性があります。
- P I牛は、死ぬまでずっとウイルスを排泄し続け、他の牛にウイルスを感染させます。
- P I牛の子は必ずP I牛になります。
- P I牛は通常、発育不良や長期不受胎、慢性的な下痢及び呼吸器症状などを示し、複合感染や日和見感染をおこしやすく、治療効果は低いです。
- 健康牛が感染しても症状を示さないことが多いため、健康な妊娠牛を買ってきたつもりが、生まれてみたら子牛がP I牛であったという可能性もあります。
- P I牛と知らずに公共牧場に放牧したり販売した場合は、他の農場に感染を広げる原因になります。

どうしたらいい？

○ワクチン接種で感染を予防しましょう

ワクチンには、生(なま)と不活化がありますが、生ワクチンを妊娠期間に接種すると、逆にP I牛を作ってしまう可能性があるので注意(ワクチンプログラムを参照)

○P I牛を農場(公共牧場含む)に入れないようにしましょう

- ・導入牛や放牧予定牛は検査を実施
- ・ワクチン歴を確認

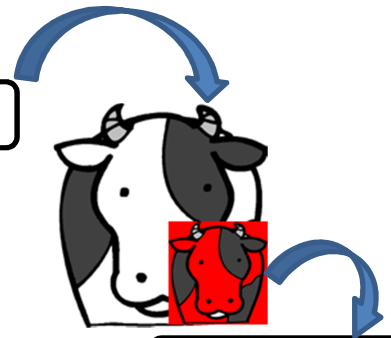
○検査をしましょう

- ・ウイルス検査(P I牛の摘発)
酪農：年2回のバルク乳によるスクリーニング検査
繁殖：ヨーネ病検査に併せた検査

公共牧場：放牧予定牛全頭

- ・抗体検査(抗体保有状況の確認)
抗体保有状況を確認し、的確・効率的なワクチン接種

妊娠中に母牛が感染



子牛がP I牛かも

中信家畜畜産物衛生指導協会が、放牧牛等を対象としたBVD-MD及び牛白血病(BL)検査事業を実施しますのでご活用下さい。

中信衛指協による検査事業

1 BVD-MD

- ・検査対象牛：放牧予定牛等
- ・検査手数料：300円/頭
検査結果が出るまでに1~2週間 余裕を見てください。
- ・結果は中信衛指協から通知されます。(検査機関は微生物化学研究所又は松本家保)

2 BL

- ・検査対象牛：放牧予定牛、牛群中の陽性牛が把握されている農場の陰性牛・未検査牛
- ・検査手数料：410円/頭【免疫学検査(820円/頭)の半額補助(国の助成事業を活用)】
平成27年度に放牧予定の牛については、3月以降に採血した血液を検体として下さい
検査結果が出るまでに1~2週間 余裕を見てください。

*「BVD-MD」と「BL」は同一の血液で検査が可能です。両疾病の検査を併せて行うことをお勧めします。

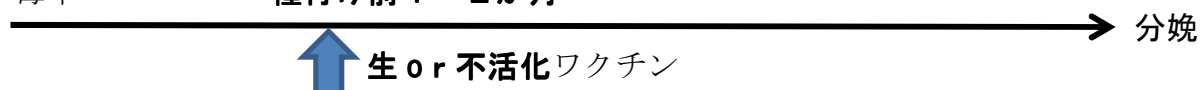
採血は臨床獣医師(中信衛指協指定獣医師)に依頼して下さい。

牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）ワクチンプログラム

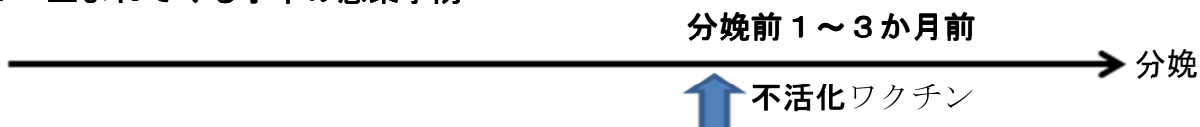
【搾乳牛及び繁殖雌牛】・・・年1回の不活化ワクチンの接種が基本です

*接種時期は予防目的により異なります

- 1 農場全体の感染防止・・・年1回不活化ワクチンの一斉接種
- 2 P I 牛の生産予防(ワクチンによるP I 牛生産の予防効果は70~80%程度です)
毎年 種付け前1~2か月

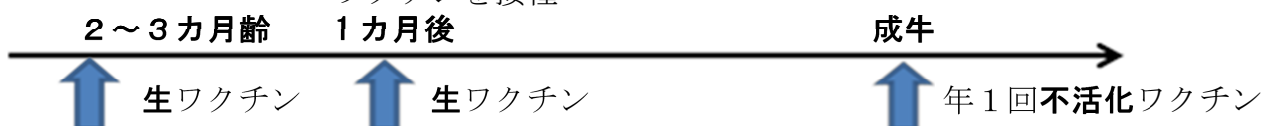


3 生まれてくる子牛の感染予防



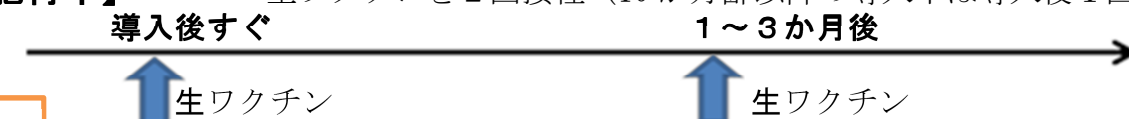
【繁殖候補牛】

自家育成の場合・・・子牛の時期に生ワクチンを2回、成牛になったら必ず年1回不活化ワクチンを接種



導入の場合・・・導入後すぐに不活化（妊娠をしていなければ生）ワクチン、その後は年1回不活化ワクチンを接種

【肥育牛】・・・生ワクチンを2回接種（10か月齢以降の導入牛は導入後1回でOK）



注

妊娠牛には必ず不活化ワクチンを！

子牛の移行抗体保有期間に接種した場合は、ワクチンの効果が得られない場合があります

上記は松本家保が推奨するワクチンプログラムですが、実際にワクチンを接種する際は診療獣医師に相談して下さい。

BVD-MDを含むワクチンの種類と中信衛指協の注射料金

	BVD-MD	IBR	PI3	RS	AD7	Hs	1頭当たり 注射料金	妊娠牛 への接種
IBR 5 混生 (株)微研)*2	1型生	生	生	生	生		1,900円	×
IBR 5 混生^E (株)微研)	1型生	生	生	生	生	不	2,300円	×
IBR 5 混不活化 (共立製薬)	1,2型*1不	不	不	不			1,800円	○
IBR 6 混不活化 (株)微研)	1,2型不	生	生	生	生		2,150円	○
IBR 6 混生 (株)微研)	1,2型生	生	生	生	生		2,150円	×

IBR：牛伝染性鼻気管炎、PI3：パラインフルエンザ3型、RS：牛RSウイルス病

AD7：牛アデノウイルス病7型、Hs：ヘモフィルス・ソムニ

*1：BVD-MDには1型と2型があり、1型に対する抗体では2型が防げない場合があります。

*2：株式会社 微生物化学研究所(京都微研)

問い合わせ先：防疫課 宮澤、川島（担当）



しあわせ信州